

姫川流域周辺



※国土地理院 数値地図 250 mメッシュ

帯だったという面影はなく、ただ荒れた河原が広がるのみとなっている。

●7・11水害

平成7年(1995)7月11日。周辺の集中豪雨が原因により姫川が大反乱を起こし、土石流や地すべりが多数発生した。前年開通したばかりの国道バイパスにある新国界橋は、土石流により200m下流へと

立し住民500人がヘリコプターで救助されている。

その後平成8年(1996)12月、国界橋付近の蒲原沢で再び大規模な土石流が発生。橋の復旧工事現場および治山

ダムの建設工事現場を巻き込み14名が亡くなる事故が起こる。付近の国道沿いに慰霊碑が建立されている。

諏訪と姫川

このように、姫川は建御名方神の生まれた場所としての伝承がある。また、諏訪大社の神事も姫川流域をさかのぼり、新潟県との境で行われるものがある。ので、諏訪とは少し離れた地にはなるが、本誌で同等に取り上げることとした。

姫川の由来

姫川の名前は古事記に登場する「奴奈川姫」に由来する。奴奈川姫は糸魚川市付近を治めていた豪族の娘で、大国主から求婚されてそれに答えた。そして



北小谷付近の広大な河原



奴奈川姫と建御名方命の像

Photo by Gurren
CC BY-SA 3.0 JP

Check 姫川

(ひめかわ)



源符「厭い川の翡翠」(諏訪子)

長野県白馬村にはじまり、新潟県糸魚川市の日本海へと注ぐ、延長60キロ足らずの姫川。その名には優雅な印象があるが、その実態はしばしば深刻な大水害を起す、全国有数の暴れ川のひとつである。

姫川と災害の歴史

姫川流域は地盤の緩い箇所が多く、記録では少なくとも江戸時代から、何度も深刻な地すべりや土石流、水害を引き起こしている。ここ100年間で、次のような大規模な水害が起こっている。

●稗田山崩れ

明治44年(1911)8月8日

未明、中流にある稗田山の北側の斜面が突如崩落した。山だつたものは支流の浦川を周りの集落ものとも押し流し、外沢付近の姫川をせき止めた。これにより高さ65mの天然ダムが出現し、川沿いの集落を浸水させた。

その後ダムを開水した際の水は、すぐ下流の北小谷村の中心部来馬集落をすべて飲み込んだ。現在も北小谷付近は穀倉地